

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。このたびの熊本県を中心とした震災により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、当社グループは2016年3月末をもって第120期を終了いたしましたので、ご挨拶を兼ねて決算概況についてご報告するとともに、当社のセグメント別内容などについても併せてご報告申し上げます、ご理解を賜りたいと存じます。



平成28年6月
代表取締役社長 **こ だま のどか**
児玉 和

■ 創立120周年の節目に「知行合一」を実践し、「CAN20」の実現につなげます。

当期の我が国経済は、政府による経済政策や金融緩和策により、全体としては緩やかな回復基調にあるものの、為替・株式相場の急激な変化や中国等の新興国経済の減速感に加え、円安による輸入品・材料費等の物価上昇に伴う個人消費の足踏み状況も見られる等、先行き不透明な経営環境が続きました。

このような状況において、当社グループでは、中期経営計画『CAN20（2014年度～2020年度）』の2年目を迎え、『集中と結集』をキーコンセプトに、「SBU（戦略的ビジネスユニット）戦略による既存事業の選択と集中」「CFA（クロスファンクショナルアプローチ）活動による成長・新規事業の育成、創出」「成長戦略を支援する経営基盤強化」への取り組みを推進しました。

機能ソリューション事業ではメディカル分野は好調に推移したものの、プラスチックフィルム分野およびエンジニアリングプラスチック分野は景気や市況の低迷を受け苦戦しました。アパレル事業では、暖冬による影響を受けましたが、売上は堅調に推移しました。

その結果、当連結会計年度の売上高は138,324百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は3,662百万円（前年同期比18.7%増）となりましたが、デリバティブ評価損や為替差損の影響等により経常利益は791百万円（前年同期比84.0%減）となり、また、事業環境の悪化により収益性が低下した電子部品分野の固定資産減損損失を計上したこと等から親会社株主に帰属する当期純損失は1,201百万円（前年同期は3,215百万円）となりました。

当社グループは2016年度に創立120周年を迎えるとともに、中期経営計画で設定した目標に向かって、事業ごとの重点戦略課題を明確化し、持続的な企業価値の向上に取り組んでまいります。

機能ソリューション事業では、プラスチックフィルム分野は事業環境が大きく変化しているなか、新市場、新商品の開発を推進します。エンジニアリングプラスチック分野では主力OA商品の成熟化への対策および半導体関連など繊維技術活用製品の拡大を図ります。また、電子部品分野ではタッチパネル販売を民生用から業務用へ転換するとともに、タッチパネル販売からフィルム販売を主体とした事業構造シフトを加速してまいります。メディカル分野では更なる成長に向けて、新工場建設などへの積極的な経営資源の投入を図り事業拡大に対応した生産・販売体制整備を推進します。

アパレル事業では、インナーウェア分野はオリジナル技術を強みに主力ブランドの更なる拡販を図り成長チャネルである直販ルート、海外販売を強化してまいります。レグウェア分野では市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品の開発などを進めてまいります。

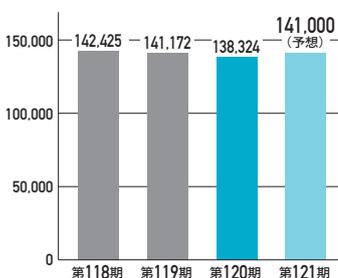
ライフクリエイト事業では、不動産分野での商業施設運営体制を見直し収益力の向上を図ります。スポーツクラブ分野においては、海外を含む積極的な多店舗展開により売上を拡大してまいります。

以上により次期（平成28年4月1日から平成29年3月31日）の連結業績につきましては、売上高141,000百万円、営業利益4,000百万円、経常利益4,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,600百万円を予想しております。

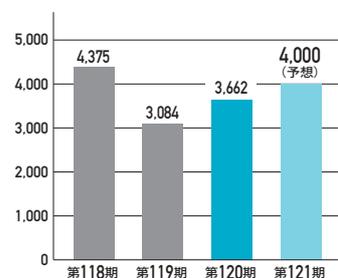
当社は、創立120周年の節目に「知行合一」の心構えで、さまざまな計画を行動で実践、成果につなげ、「お客さまに“ここちよさ”をお届けしていく」という強い意志をもって社会に貢献する企業を目指していきます。株主の皆さまには変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■ 決算ハイライト

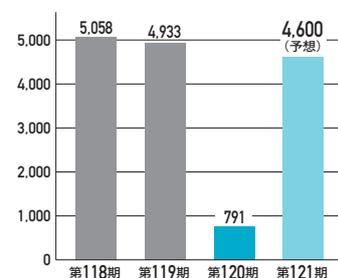
● 売上高 単位：百万円



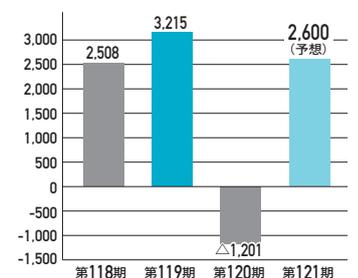
● 営業利益 単位：百万円



● 経常利益 単位：百万円



● 親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失(△) 単位：百万円



連結業績のご報告

連結貸借対照表(要約)

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

科目	平成27年3月31日現在	平成28年3月31日現在
資産の部		
流動資産	77,621	71,605
固定資産	97,709	98,143
有形固定資産	70,218	69,884
無形固定資産	1,210	1,322
投資その他資産	26,280	26,936
資産合計	175,331	169,749
負債の部		
流動負債	35,440	38,433
固定負債	22,531	24,676
負債合計	57,971	63,110
純資産の部		
株主資本	111,792	107,567
資本金	26,071	26,071
資本剰余金	14,056	13,999
利益剰余金	79,313	76,605
自己株式	△7,648	△9,108
その他の包括利益累計額合計	3,850	△2,408
新株予約権	342	246
非支配株主持分	1,374	1,233
純資産合計	117,359	106,639
負債および純資産合計	175,331	169,749

流動資産 前年同期比60億円減少

現金及び預金16億円の減少、受取手形及び売掛金21億円の減少、たな卸資産16億円の減少などより、全体では60億円の減少となりました。

固定資産 前年同期比4億円増加

退職給付に係る資産21億円の減少、繰延税金資産26億円の増加などにより、全体では4億円の増加となりました。

流動負債 前年同期比29億円増加

設備関係支払手形7億円の増加、流動負債その他(為替予約等)23億円の増加などにより、全体では29億円の増加となりました。

固定負債 前年同期比21億円増加

長期借入金14億円の増加、退職給付に係る負債14億円の増加などにより、全体では21億円の増加となりました。

純資産 前年同期比107億円減少

親会社株主に帰属する当期純損失の計上12億円、自己株式の取得等による14億円の減少、配当金の支払14億円、その他有価証券評価差額金35億円の減少、退職給付に係る調整累計額22億円の減少などにより、全体では107億円の減少となりました。

売上高 前年同期比2.0%減少

機能ソリューション事業で35億円の減収、アパレル事業で5億円の増収、ライフクリエイト事業で微増収となり、全体では28億円の減収となりました。

営業利益 前年同期比1.4%増加

機能ソリューション事業で微増益、アパレル事業で7億円の増益、ライフクリエイト事業で微減益となり、全体では5億円の増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純損失 12億円

デリバティブ評価損28億円の計上、固定資産減損損失13億円の計上などにより、親会社株主に帰属する当期純損失は12億円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー 前年同期比22億円増加

減価償却費66億円、売上債権の減少20億円、たな卸資産の減少11億円、保険金の受取9億円などにより117億円の収入となり、前年同期比22億円の増加となりました。

連結損益計算書(要約)

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

科目	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
売上高	141,172	138,324
売上総利益	33,533	34,465
販売費及び一般管理費	30,448	30,802
営業利益	3,084	3,662
営業外損益	1,849	△2,871
経常利益	4,933	791
特別損益	671	△1,598
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	5,605	△807
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	3,215	△1,201

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

科目	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,512	11,775
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,240	△12,046
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,726	△1,274
現金及び現金同等物に係る換算差額	372	△138
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,371	△1,684
連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	30	△3
現金及び現金同等物の期末残高	9,159	7,471

1,000株以上保有の株主優待は、年2回(毎年3月末・9月末)

3月末(期末期)

通販カタログ「セレストイル」

30%割引優待

※カタログはイメージです



9月末(中間期)

自社製品 株式保有数と保有年数に応じてグンゼ商品を贈呈

株式保有年数	3年未満	3年以上5年未満	5年以上
保有株数 1,000~2,999株	2,000円相当	3,000円相当	4,000円相当
保有株数 3,000株以上	4,000円相当	6,000円相当	8,000円相当

相当金額分を「グンゼオンラインストア」で使用できるクーポン券

または「熊本地震」復興支援の寄付【寄付先】あしなが育英会にも変更できます

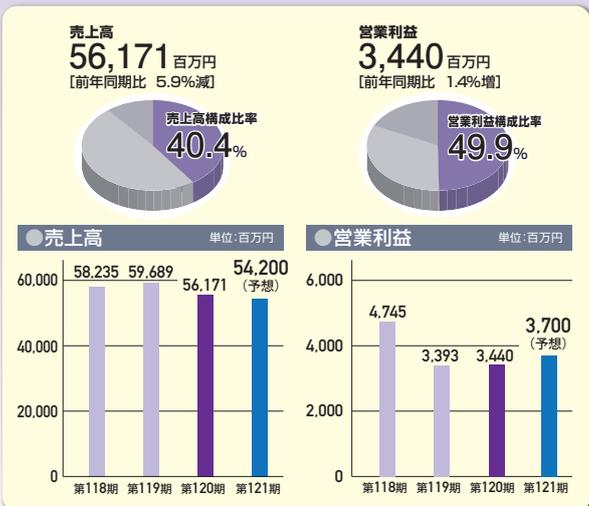
さらに+

通販カタログ「セレストイル」で割引優待にてご購入いただけます

30%割引優待

セグメント状況

機能ソリューション事業



(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

プラスチックフィルム分野は、主力のシュリンクフィルムが飲料用途を中心に低迷し、海外でも欧州輸出の減速により苦戦しましたが、原材料価格安の影響等により利益を確保しました。エンジニアリングプラスチック分野は、OA市場向け製品では新興国市場の景気停滞の影響、非OA市場向け製品では半導体産業での在庫調

整の影響により低調に推移しました。電子部品分野では、パソコン向けタッチパネル販売等の低迷と競争激化で採算性が厳しく、海外生産工場再編・合理化等の生産性改善に取り組みましたが、業績への貢献に至りませんでした。メディカル分野は、北米向けが引き続き好調であり、国内・中国向け販売も順調に推移しました。

〈プラスチックフィルム分野〉



ペットボトルに使われている平板収縮フィルム

〈エンジニアリングプラスチック分野〉



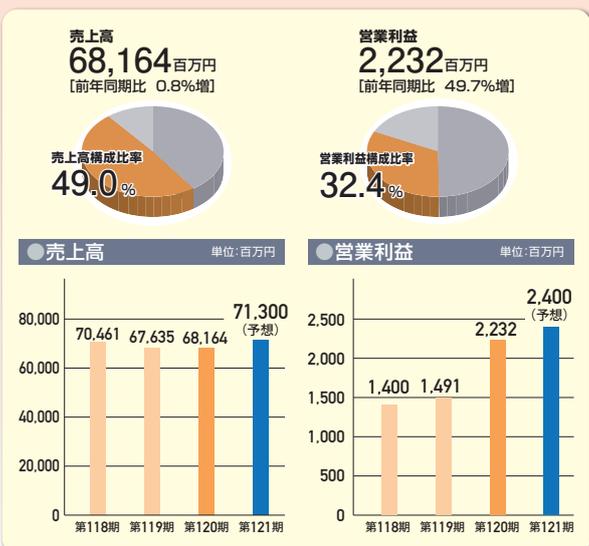
半導体製造用の超純水洗浄フィルター用資材

〈メディカル分野〉



手術後に体内に吸収される骨接合材

アパレル事業



(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

アパレル事業は総じて暖冬により冬物が苦戦しましたが、インナーウェア分野では、主カブランドである快適工房のリニューアルと成長販路拡大により売上減少に歯止め

がかかりました。レッグウェア分野は、ストッキングの主カブランドのサブリーナが好調に推移するとともにレギンスパンツも売上を伸ばしました。

〈インナーウェア分野〉

リニューアルした「快適工房」



肌がよくゴブスキウエア「KIREILABO」

〈レッグウェア分野〉



強く、やさしく、美しく。ストッキング「SABRINA」



男もラクしてカッコよく! レギンスパンツ「Tuché HOMME」

ライフクリエイティブ事業



(注)セグメント合計は、セグメント間で発生した売上、利益を調整する前の数値です。

不動産関連分野は、商業施設「グンゼタウンセンターつかしん」がテナント再編リニューアル効果により好調に推移しました。スポ

ーツクラブ分野では、出店効果により売上は増加したものの、新規店の初期費用影響を受けました。

〈不動産関連分野〉



グンゼタウンセンターつかしん



リニューアルした「ひがしまち」の店舗の様子

〈スポーツクラブ分野〉



3/25にオープンした広島祇園店は「遊べるジム」がコンセプト



グンゼスポーツクラブは7/1オープン予定の京都八幡店で計20店舗となります。

取締役、監査役、執行役員、主な連結子会社 (平成28年6月24日現在)

取締役、監査役

代表取締役社長兼社長執行役員 (CEO兼COO) 児玉 和
 代表取締役専務取締役兼専務執行役員 経営戦略部長 (CHO兼CSRO兼CMO) 廣地 厚
 常務取締役兼常務執行役員 財務経理部長 (CFO兼CMAO兼CIO) 古川 知己
 取締役 (社外) 天野 勝介
 取締役 (社外) 白井 文
 取締役兼執行役員 人事・総務部長 (CCO兼CHO代理) 赤瀬 康宏
 取締役兼執行役員 繊維資材事業部長 岡 修也
 取締役兼執行役員 プラスチックカンパニー長 佐口 敏康
 取締役兼執行役員 エンプラ事業部長 木村 克彦
 取締役兼執行役員 アパレルカンパニー長、レグウエア事業本部長 高尾 茂樹
 取締役兼執行役員 技術開発部長 (CTO) 阿武 克也
 取締役兼執行役員 研究開発部長 (CRO) 及川 克彦
 監査役 (常勤) 下井 幸夫
 監査役 (社外) 井上 圭吾
 監査役 (社外) 鈴鹿 良夫
 監査役 浜村 眞

執行役員

取締役を兼務するもの以外の執行役員は以下の通りです。
 常務執行役員 電子部品事業部長 服部 和徳
 執行役員 QOL研究所長 鈴木 昌和
 執行役員 メディカル事業部長 森田 眞一郎
 執行役員 グンゼ開発株式会社 代表取締役社長 溝口 克彦
 執行役員 グンゼスポーツ株式会社 代表取締役社長 佐藤 雅之
 執行役員 アパレルカンパニーインナーウエア事業本部長 荒木 敬太
 執行役員 アパレルカンパニー次長 中野 努

主な連結子会社

(国内) 福島プラスチック(株) 上海郡新塑材有限公司 (中国)
 グンゼ包装システム(株) 上海郡是通虹織維有限公司 (中国)
 グンゼ高分子(株) Gunze Electronics U.S.A. Corp. (米国)
 東北グンゼ(株) Guan Zhi Holdings Ltd. (香港)
 九州グンゼ(株) 山東冠世針織有限公司 (中国)
 グンゼ開発(株) Gunze(Vietnam)Co.,Ltd. (ベトナム)
 (株)つかしんタウンクリエイト 上海郡是通虹織維有限公司 (中国)
 グンゼスポーツ(株) P.T. Gunze Indonesia (インドネシア)
 グンゼグリーン(株)

(注)当社は、チーフオフィサー制度を採用し、チーフオフィサーで構成する経営執行会議にて、経営重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化を図っております。

CEO Chief Executive Officer (最高経営責任者)
 COO Chief Operating Officer (最高執行責任者)
 CHO Chief Human-Resources Officer (人事担当)
 CSRO Chief Corporate Social Responsibility Officer (CSR担当)
 CMO Chief Marketing Officer (マーケティング担当)
 CFO Chief Financial Officer (財務担当)
 CMAO Chief Management&Accounting Officer (経営・管理担当)
 CIO Chief Information Officer (情報担当)
 CCO Chief Compliance Officer (コンプライアンス担当)
 CTO Chief Technical Officer (技術担当)
 CRO Chief Research &Development Officer (研究開発担当)

株式の状況 (平成28年3月31日現在)

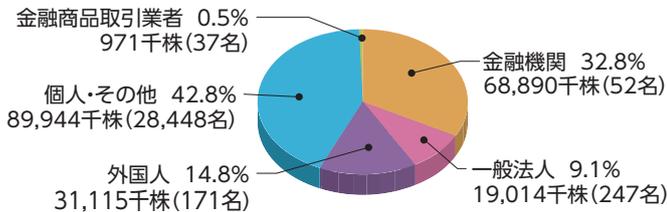
発行済株式の総数 209,935,165株

◎自己株式 (平成27年4月1日から平成28年3月31日)

取得 5,026千株 (1,656百万円)
 処分 491千株 (196百万円)
 期末 22,966千株 (9,108百万円)

◎単元株式数：1,000株

株主数 28,955名



(注)円グラフは発行済株式数に対する保有割合

大株主一覧 (上位10名の株主)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	32,457	17.36
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,131	3.28
株式会社京都銀行	5,875	3.14
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	5,378	2.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,602	2.46
株式会社GSIクレオス	4,205	2.25
第一生命保険株式会社	4,148	2.22
資産管理サービス信託銀行株式会社	3,231	1.73
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	3,066	1.64
グンゼグループ従業員持株会	3,048	1.63

(注)当社は、自己株式22,966千株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社の概況 (平成28年3月31日現在)

社名 グンゼ株式会社
 設立年月日 明治29年8月10日
 資本金 26,071百万円
 従業員 1,842名(単体) 6,858名(連結)
 本店 京都府綾部市青野町膳所1番地
 大阪本社 大阪市北区梅田二丁目5番25号 (ハービスOSAKAオフィスタワー)
 TEL(06)6348-1313
 東京支社 東京都中央区日本橋二丁目10番4号
 TEL(03)3276-8710

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月下旬
 株主総会・期末配当基準日 3月31日
 公告方法 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 上場取引所 東京(第1部)
 証券コード 3002
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 同連絡先 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 TEL: 0120-094-777(通話料無料)